

「令和 2 年度富山市中学校 3 年生学力調査」  
結果の概要

令和 3 年 1 月 2 9 日 (金)

富山市教育委員会



## 「令和2年度富山市中学校3年生学力調査」結果の概要について

### I 本調査の目的

- ・各中学校が、3学年生徒の2学期終了時の学力定着状況について、実証データに基づいて把握し、今後の学習指導の改善・充実に生かす。
- ・生徒一人一人が、自分の努力すべき課題に向かって意欲的に学習に取り組むよう進路指導資料として活用する。

### II 実施状況

- 1 実施期日 令和2年12月2日(水)、3日(木)
- 2 調査教科 国語、社会、数学、理科、英語
- 3 実施学校数・生徒数

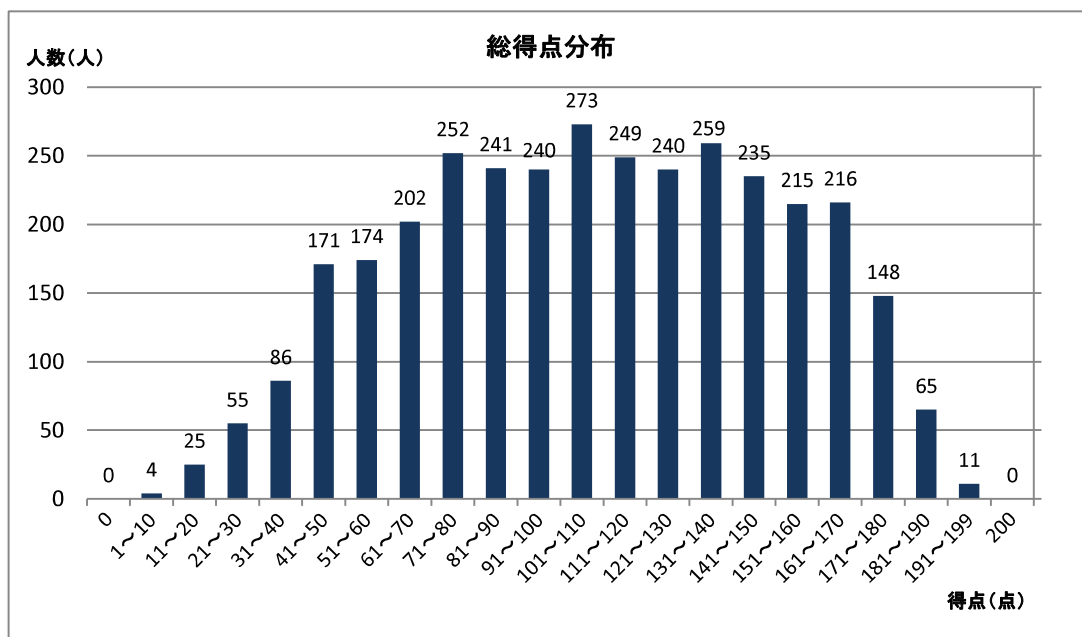
実施学校数	生徒数	
27校1分校 附属中を含む	在籍数	3,598人
	受検者数	3,361人 (5教科全てを受検した生徒数)

### III 結果の概況

#### 1 教科別全生徒平均点

国語	社会	数学	理科	英語	総得点
24.7点	22.6点	20.7点	20.3点	19.8点	108.4点

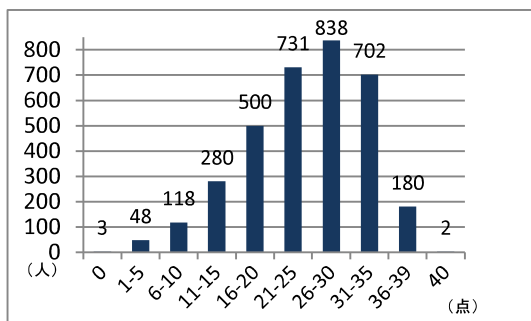
#### 2 総得点分布グラフ



### 3 教科別得点分布グラフ

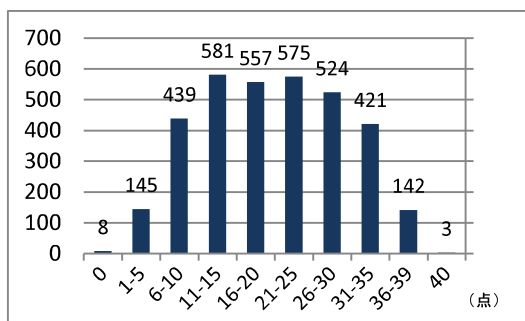
#### 国語

平均点 24.7点 受検者数 3,402人



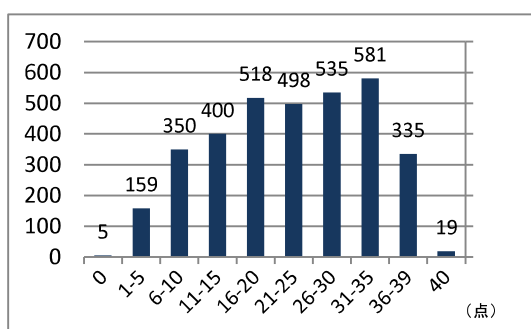
#### 理科

平均点 20.3点 受検者数 3,395人



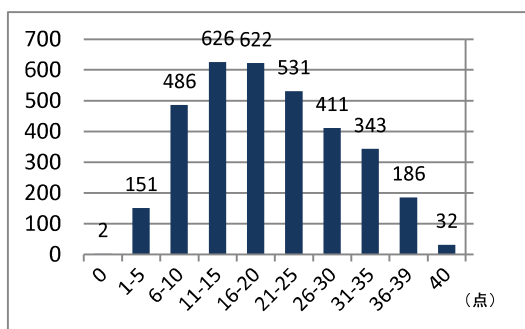
#### 社会

平均点 22.6点 受検者数 3,400人



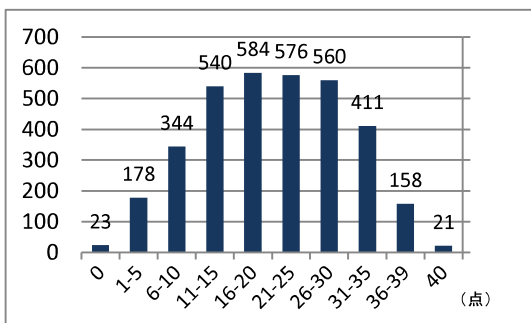
#### 英語

平均点 19.8点 受検者数 3,390人



#### 数学

平均点 20.7点 受検者数 3,395人



## IV 結果の概要

### 1 抽出調査について

27中学校の各学級8人(男子4名、女子4名)をそれぞれ出席番号の早い順に1番から4番まで抽出生徒の記録としてデータを取る。欠席の場合は、出席番号を繰り上げて、必ず各学級から8人の抽出を行うものとした。

### 2 抽出生徒数

学校数	学級数	抽出生徒数
27校	102学級	816人

(附属中含む)

## V 各教科の概要

### 1 教科の考察

#### (1) 教科全体から見た結果

「得点分布表」「観点別解答率表」等から読み取れる教科全体の概要について、その特徴を表記する。

#### (2) 正答率の高い問題について

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率の高い問題について、考察を行う。

#### (3) 読解力と正答率の関連について

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率と読解力との関連について、実際の問題の一部を提示しながら考察を行う。

### 2 今後の授業に向けて

1の(3)で考察した読解力の視点も含め、今後の指導の工夫について表記する。

## VI 読解力の視点からの考察

### 1 読解力

読解力とは、一般的には、例えば主語と述語の関係や、「それ」などの指示語が何を指しているのかなど、文章で表された情報を的確に理解する力である。また、「PISA 型読解力」とは、一般的な文字や文章といった「連続型テキスト」の理解だけでなく、グラフや図表、地図など様々な資料（「非連続型テキスト」）を理解し、利用し、熟考する力であるとされている。

### 2 読解力の視点からみえる課題

国語科の文学的な文章では、「おもむろに」という言葉の意味を答える問題の正答率が 22.7%と低かった（通し番号 18）。本来読解力とは、文脈から語句の意味を推し量る力であるが、今回の出題では文脈から意味を判断することが難しく、語彙の不足が誤答となった原因であると考えられる。読解力を身につけていくために、語彙が豊かであることは大切な要素であり、今後取り組むべき課題である。

英語科において、ホームステイの体験を伝えるスピーチの要約文に適切な語句を当てはめる問題の正答率が 57.0%、20.0%と低かった（通し番号 21、22）。適切な語句を選択するためには、本文の内容を正しく読み取ることに加え、文法的な知識に照らし、文章の前後の関係からあてはまりそうな語句を推し量り、適切に語句を取捨選択できなかったことに課題があったと考えられる。

### 3 読解力の向上に向けた今後の指導

#### ・多様な書物にふれる

読解力を向上させていくためには、語彙を豊かにすることが必要である。新聞を読んだり、他人から勧められた本を読んだりすることで、普段読み慣れない多彩な文章や意見にふれ、知らない語句や慣用句に出会った時には、辞書等で繰り返し調べることを習慣化することで語彙が豊かになる。さらに、出会った語句や慣用句を使って表現する機会を設定することで、表現したい心情や場面に合った言葉を試行錯誤することで語彙が定着し、語彙力が身についていく。

#### ・課題や条件に応じて表現する

国語科も英語科も同様に、要約文が本文の内容と同じになるように適切な語句を選ぶには、文章を正確に読み取るとはもちろん、文の構成や文法に関する知識と条件に応じた豊かな表現力が必要である。「筆者の考えを端的に述べる」や「同じ意味になるように言い換える」など課題や条件に合わせて表現することで、多様な表現力が養われる。また、互いの文章を発表し合う場面を設定することで、他者の表現と比較し、異なる表現方法を知るきっかけとなり、文法の理解が深まり表現が豊かになる。

## VII 中1学力調査との比較からの成果と課題

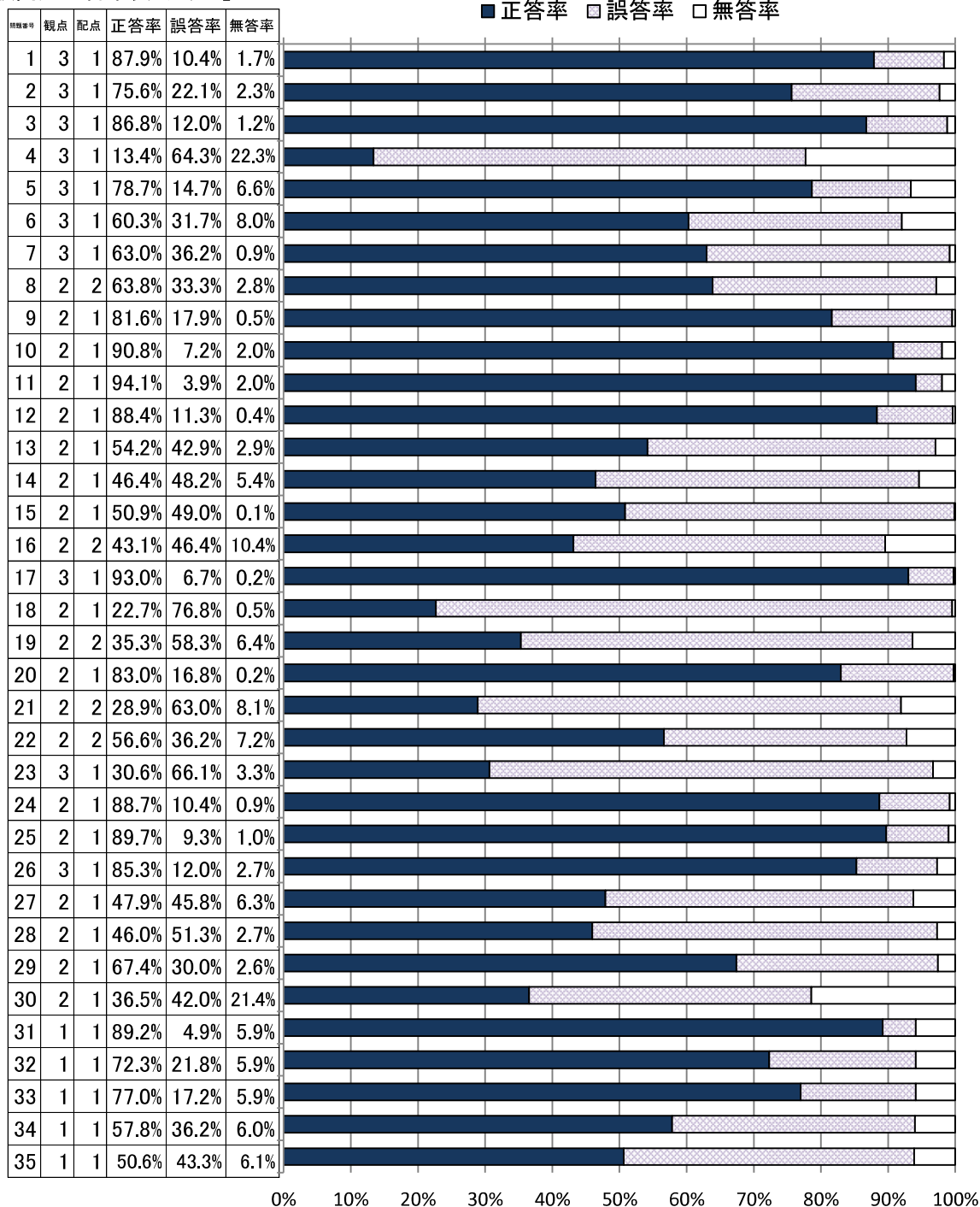
入学時の中1学力調査の結果と比べ、全体的に正答率は低い。観点別に分析すると、ほぼ変わらない正答率であったのは、数学の知識・理解の観点であった。また、国語では書くことの無答率がやや減少しており、改善が見られる。

記述問題を比較してみると、無答率は 6.1%から 10.8%へと増加し、正答率は 61.9%から 46.7%へとかなり下がっている。普段から自分の考えを書いたり、発表したりするなどの活動を計画的に取り入れ、自分の考えを他者に分かりやすく伝える場を設けることで、表現する力を育成したい。

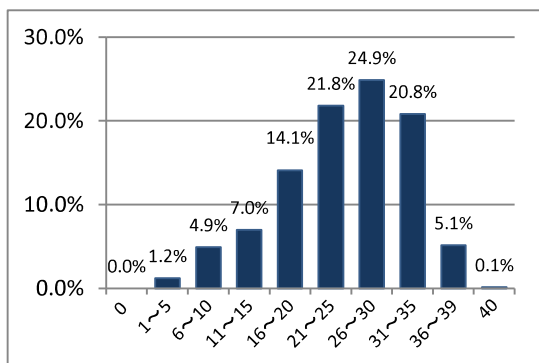
VI 抽出生徒から分析する各教科の概要

**国語** 抽出生徒数 816人 抽出平均 24.7点

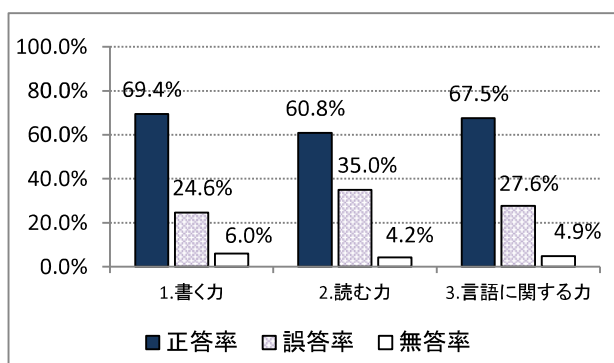
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 国語科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は24.7点である。観点別の正答率は「書く力(69.4%)」「言語に関する力(67.5%)」に比べ、「読む力(60.8%)」が低い。無答率10%以上の問題は昨年度の9問から3問となり減少している。

### (2) 正答率の高い問題について

「書く力」では、作文を二段落構成で書くことや、文体を統一して原稿用紙を正しく使うことの正答率が高く、形式を整えて書く力が身につけている。(通し番号31、33)「読む力」では、説明的文章において、筆者の考えをまとめた表の空欄を埋める問題の正答率が高い(通し番号10、11)。また、文学的な文章においては、情景描写から登場人物の心情を読み取る問題や、登場人物の人物像を読み取る問題の正答率が高い(通し番号24、25)。「言語に関する力」では、漢字の読み取りや、語句が修飾する部分を選んで答える問題の正答率が高い(通し番号1、3、17)。

### (3) 読解力と正答率との関連について

説明的な文章では、筆者の考えを表す語句に対応する具体例を文章中から抜き出す問題について、無答率はそれぞれ2.9%、5.4%と高くはないが正答率は54.2%、46.4%と低かった。(通し番号13、14)。このことから、筆者の考えとその考えの根拠となる具体例との関係性を理解することに課題があると考えられる。

(通し番号13、14)

② キウイ の例において、「はずれ者」、「さらにはずれた者」にあたるものを、それぞれ文章中から抜き出しなさい。

## 2 今後の授業に向けて

- (1) 説明的な文章では、筆者の考えと事実等を明確に区別して読み、これらの関係性や文脈の中での役割を考えながら読むことが大切である。そのために、例えば、筆者の考えと具体例等を表にまとめて関係性を整理するなど、視覚的に文章全体の内容や構成をとらえる手立てが有効である。
- (2) 文学的な文章では、登場人物の心情等について様々な表現を手がかりとして豊かに読み取ることが大切である。そのために、登場人物の言動を表す様々な叙述から人物像を話し合ったり、情景描写に着目し、その表現を評価するなどの言語活動を繰り返したりすることで、些細な表現の違いにも敏感な読み手や書き手を育てることもつながる。
- (3) 読解力や表現力を高めるためには、国語の果たす役割や特質についてまとまった知識を身につけることが必要である。それは、例えば、文の成分の順序や照応、構成のきまりについて正しく理解することである。そのために、文章の意味を変えずに、語句の順序を入れかえたり、主語を別のものに置きかえたりして表現する活動を適宜取り入れることが有効である。また、そうした表現を仲間と交流したり表現の効果について評価したりする場を設定するとさらに効果的である。

# 社会

抽出生徒数 816人

抽出平均 22.8点

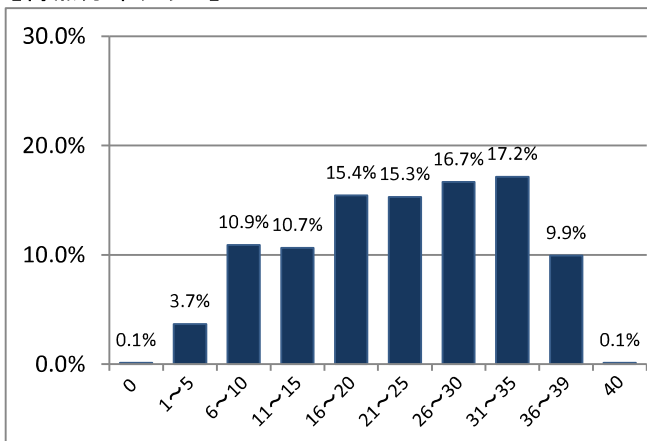
【設問別正答率表・グラフ】

問題番号	観点	配点	正答率	誤答率	無答率
1	2	1	51.5%	48.2%	0.4%
2	3	1	67.4%	32.2%	0.4%
3	2	1	49.0%	50.6%	0.4%
4	3	1	54.0%	32.5%	13.5%
5	2	1	52.1%	44.9%	3.1%
6	1	1	53.2%	46.2%	0.6%
7	1	1	53.1%	36.9%	10.0%
8	2	1	68.1%	29.9%	2.0%
9	3	1	49.5%	50.4%	0.1%
10	2	1	63.5%	33.3%	3.2%
11	3	1	47.5%	51.7%	0.7%
12	2	1	81.9%	14.5%	3.7%
13	1	1	29.3%	65.1%	5.6%
14	1	1	72.2%	26.0%	1.8%
15	1	1	62.5%	26.2%	11.3%
16	3	1	80.6%	18.8%	0.6%
17	1	1	45.7%	41.2%	13.1%
18	2	1	69.1%	27.2%	3.7%
19	3	1	71.1%	18.4%	10.5%
20	1	1	52.7%	44.9%	2.5%
21	1	1	75.1%	23.8%	1.1%
22	3	1	37.5%	46.0%	16.5%
23	3	1	33.9%	64.3%	1.7%
24	3	1	44.2%	32.0%	23.8%
25	1	1	40.8%	40.8%	18.4%
26	2	1	58.1%	39.0%	2.9%
27	3	1	27.2%	70.8%	2.0%
28	1	1	47.5%	50.5%	2.0%
29	3	1	71.7%	27.1%	1.2%
30	3	1	67.4%	22.3%	10.2%
31	2	1	72.5%	24.1%	3.3%
32	1	1	66.4%	23.8%	9.8%
33	3	1	54.9%	37.7%	7.4%
34	3	1	52.8%	35.5%	11.6%
35	2	1	60.5%	35.8%	3.7%
36	1	1	58.7%	38.5%	2.8%
37	3	1	65.0%	24.1%	10.9%
38	2	1	75.0%	18.1%	6.9%
39	1	1	48.8%	36.0%	15.2%
40	1	1	43.5%	53.3%	3.2%

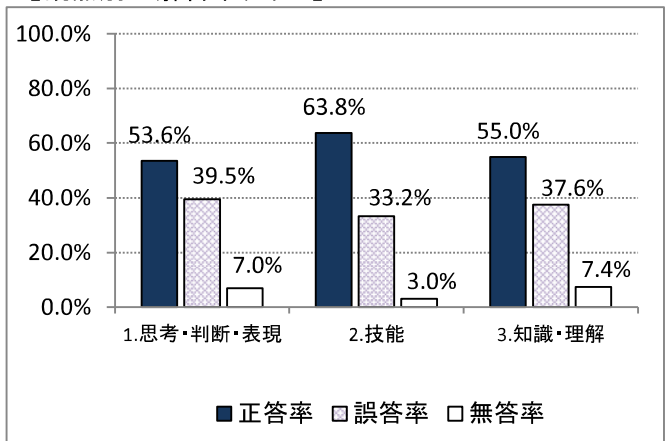
■ 正答率 □ 誤答率 □ 無答率

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】





## 1 社会科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 22.8 点である。観点別の正答率は、「技能」が 63.8%（昨年度 59.4%）、「知識・理解」が 55.0%（昨年度 54.2%）、「思考・判断・表現」が 53.6%（昨年度 50.5%）と、全観点において昨年度よりも高くなった。無答率が 10% 以上の問題は 1 2 問で、昨年度（1 4 問）よりやや減少した。説明を記述する問題の正答率が 50%前後と低く、無答率が 10%以上と高い傾向が見られ、語句や人物名を問われる問題における無答も目立つ。

### (2) 正答率の高い問題について

「技能」では、貿易額の内訳のグラフから、割合が多いものを答えたり、都府県の歳入と内訳のグラフから、地方公共団体が独自に集める税の名称を答えたりするなど、資料から語句を抜き出して答える問題の正答率が高い（通し番号 12、38）。「知識・理解」では、歴史上の人物に関係が深い事柄を選ぶ問題や、5 人の歴史上の人物を時代順に並べ替える問題の正答率が高い（通し番号 16、21）。

### (3) 読解力と正答率との関連について

各都府県の歳入とその内訳のグラフから特徴をとらえる問題では、正答率が 43.5%と低かった。歳入の割合で他の都府県と比較するときには、グラフから数値をそのまま読み取って比較できるのに対し、歳入の金額を比較するときには、＜各都府県の歳入の総額＞と＜割合＞の積を比較しなくてはならない。グラフから数値を読み取ることに加え、比較できるよう数値を的確に処理することに課題があったと考えられる。（通し番号 40）

（通し番号 40）

③ 資料 3 から読み取ることができるものとして、正しいものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 資料中の都府県の中で、国から配分されるお金の割合が最も高いのは秋田県である。

イ 資料中の都府県の中で、地方税の金額が一番高いのは沖縄県である。

ウ 資料中の都府県の中で、地方債の割合が一番高いのは大阪府である。

エ 国庫支出金の金額は秋田県より大阪府が多い。

オ 東京都では、地方税の割合が、国から配分されるお金の割合の 7 倍以上となっている。

資料 3 都府県の歳入とその内訳



## 2 今後の授業に向けて

(1) 資料を基に分かったことを説明する力を育成するためには、教科書の資料はもちろん、関連する新聞や読み物等の資料に親しみ、資料から読み取れることを発表したり、レポートにまとめたりする活動が大切である。また、発表に使った資料の妥当性等を吟味する場を設けることで、資料を読み取る力が養われ、説得力のある説明ができるようになる。

(2) 社会における基礎的・基本的な知識の定着を図るためには、「なぜそうなのか」「どのような影響を及ぼしたか」など、背景や原因と結果を関連づけて語句や出来事を理解することが重要である。また、例えば、享保の改革、田沼意次の政治、寛政の改革等、複数の社会的事象を時期や推移等に注目してとらえ、表にまとめて比較するなどして類似や差異、特色を明確にしたり、事象間の関連を考えたりする活動を取り入れることで理解が深まり、知識の定着が図られる。

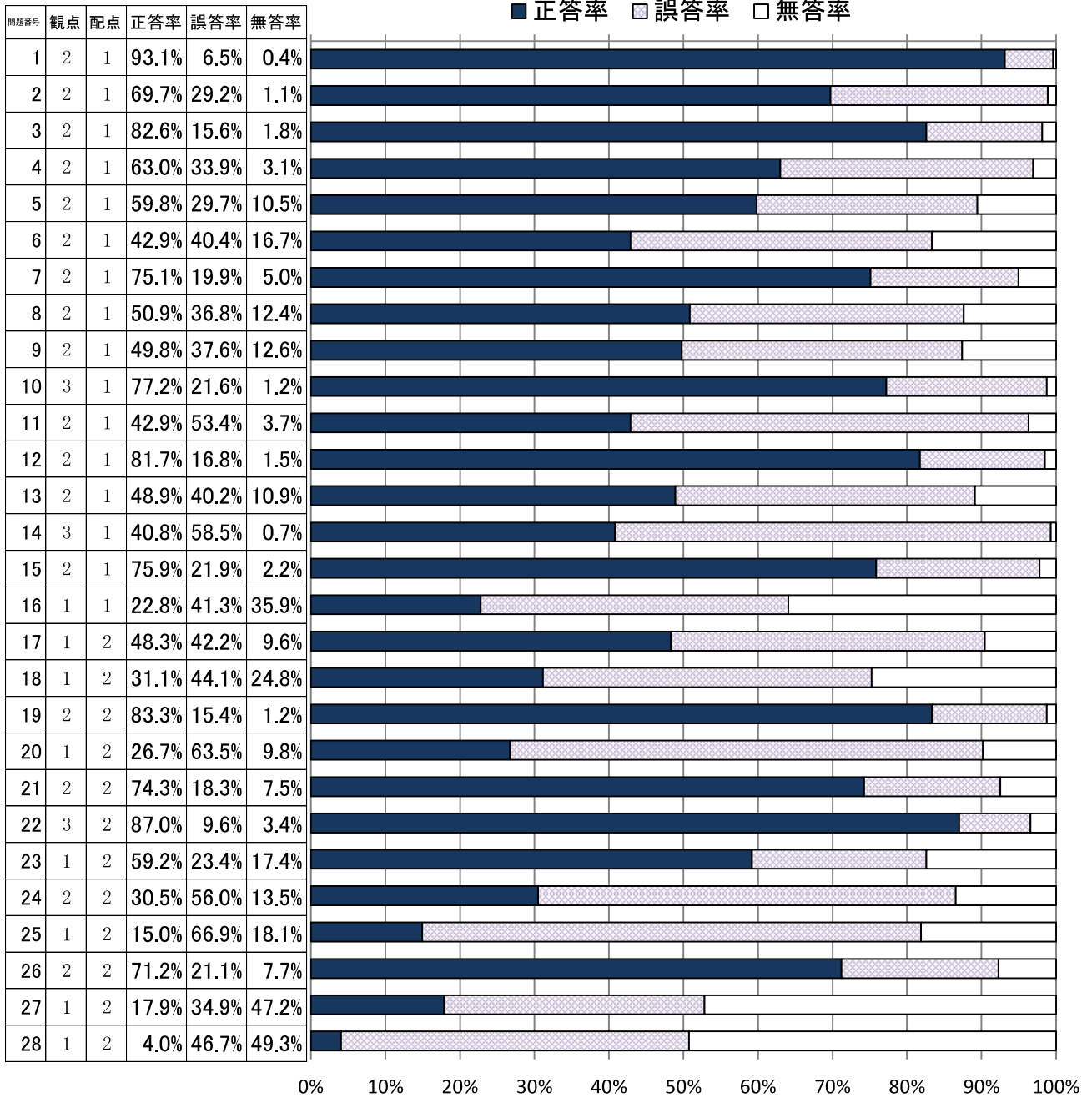
(3) グラフや図表から読み取れる情報を的確に処理する力を育成するためには、比較したい数値を明確にし、処理する過程を大切に指導したい。また、その処理した数値を基に考察することで新たな情報や知識を得ることにつながる。

# 数 学

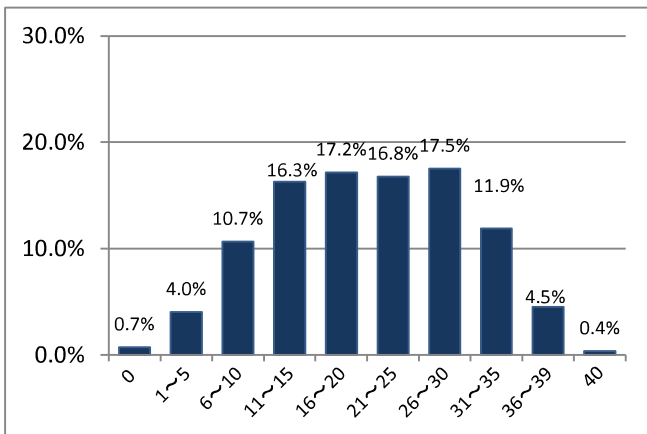
抽出生徒数 816人

抽出平均 20.7点

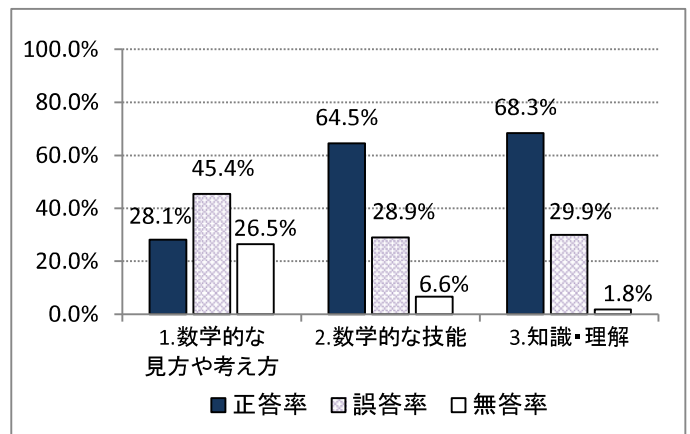
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 数学科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 20.7 点である。観点別でみると、「数量や図形等についての知識・理解」の正答率が 68.3%、「数学的な技能」の正答率が 64.5%であるのに対して、「数学的な見方や考え方」の正答率は 28.1%と低い。昨年度との比較では、「数量や図形等についての知識・理解」においては、昨年度の正答率 (55.8%) より 12.5%上がったが、「数学的な見方や考え方」においては、昨年度の正答率 (38.9%) より 10.8%下がっている。無答率が 10% 以上の問題は 12 問と、昨年より 3 問減少している。

### (2) 正答率の高い問題について

「数と式」領域では、正負の数の計算、根号を含む式の計算、連立方程式を解く問題、規則性をとらえて具体的な数を求める問題の正答率が高い。(通し番号 1、3、7、15)「図形」領域では、空間における辺の関係や、平行線の性質から角の大きさを求める問題の正答率が高い(通し番号 10、12)。「関数」領域では、 $y=ax^2$  の変域を求める問題の正答率が高い。

(通し番号 26)「資料の活用」領域では、確率を求める際に必要となる条件をもとに具体的な事象の結果を求める問題の正答率が高い(通し番号 19)。

### (3) 読解力と正答率の関連について

2市の水道料金をテーマにした「関数」領域の問題では、条件に合わせてA市の水道料金を求める問題の正答率は 74.3%、2市それぞれの水道使用量と水道料金の関係を表したグラフを正しく解釈する問題の正答率は 87.0%と高い。それらに対し、条件に合わせてB市の水道料金を求める下記の問題の正答率は 59.2%と低く、無答率は 17.4%と高い。表や問題文を解釈したうえで、目的に応じて複数の条件を関連づけて考える必要があるため、立式することが難しかった生徒が多かったと思われる(通し番号 21、22、23)。

(通し番号 23)

- (3) 今月、B市に住んでいる直子さんは、節水に取り組んで水道使用量を  $20 \text{ m}^3$  以下にしました。すると、水道料金がA市の基本料金と同じになりました。直子さんの今月の水道使用量を求めなさい。

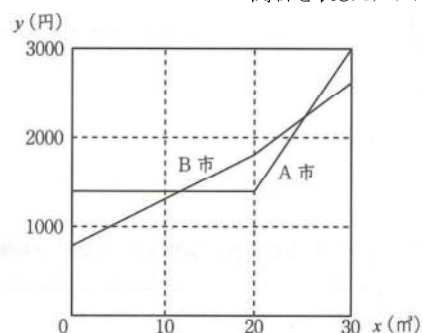
【2市の水道料金の基本設定の表】

A 市の水道料金 (1 か月分)			
基本料金	1400円		
使用料金	20 $\text{m}^3$ 以下	1 $\text{m}^3$ につき	0円
	20 $\text{m}^3$ を超えた分	1 $\text{m}^3$ につき	160円

B 市の水道料金 (1 か月分)			
基本料金	800円		
使用料金	20 $\text{m}^3$ 以下	1 $\text{m}^3$ につき	50円
	20 $\text{m}^3$ を超えた分	1 $\text{m}^3$ につき	80円

【2市の水道使用量( $x \text{ m}^3$ )と水道料金( $y$  円)の関係を表したグラフ】



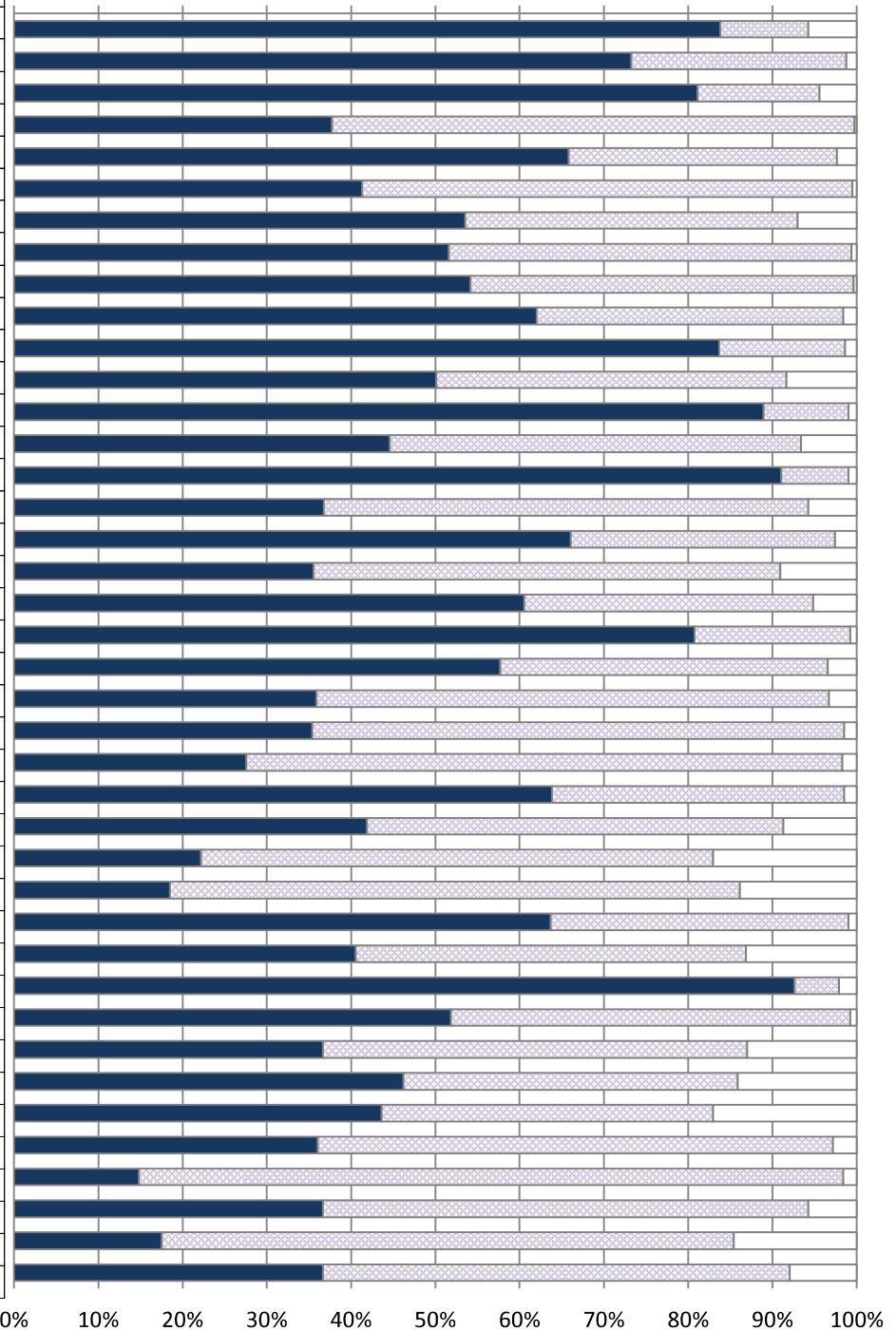
## 2 今後の授業に向けて

- 「関数」領域の学習では、ともなって変わる2つの数量から関数関係を見だし、表現し考察する能力を培うことが肝要である。そのためには、ともなって変わる2つの量を明確にしたうえで、変化の特徴や法則に着目できるように式やグラフ等を効果的に用いるようにしたり、発見した法則等を用いて課題解決を図るよさを実感したりする場を多く設定することが大切である。
- 「図形」領域の学習では、図形の性質等を直感的に捉え論理的に考察する力を養うため、観察や操作等を通して教材に十分かわりながら図形の基本的な性質を見出すように指導することが大切である。また、既習の図形の性質等を用いて解決する発展的な課題を提示したり、根拠を示しながら筋道立てて説明する場を設定したりするなど、図形を論理的に捉えるようにするための工夫が必要である。
- 図表やグラフから得られる条件を関連づけて考える力を養うためには、図表やグラフの意味や構成を理解することが必要である。図表やグラフは何が読み取れるのかを問いかけたり、読み取ったことをグループで交流させたりすることで気づきを与え、自ら課題を解決できるように導くことで、情報を関連させて考える力を養いたい。

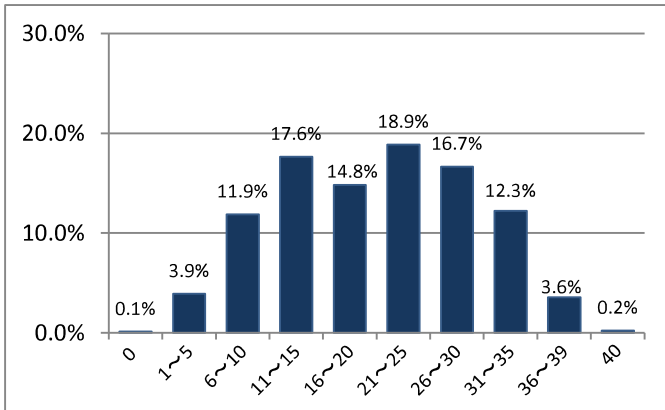
【設問別正答率表・グラフ】

■ 正答率 ■ 誤答率 □ 無答率

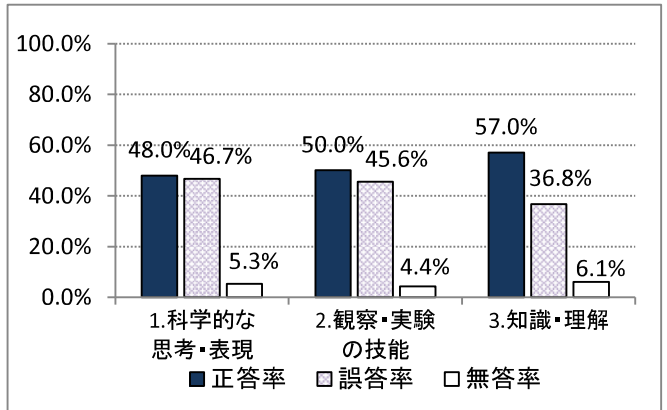
問題番号	観点	配点	正答率	誤答率	無答率
1	3	1	83.8%	10.4%	5.8%
2	1	1	73.3%	25.5%	1.2%
3	2	1	81.1%	14.5%	4.4%
4	2	1	37.7%	62.0%	0.2%
5	2	1	65.8%	31.9%	2.3%
6	1	1	41.3%	58.2%	0.5%
7	1	1	53.6%	39.5%	7.0%
8	2	1	51.6%	47.8%	0.6%
9	2	1	54.2%	45.5%	0.4%
10	2	1	62.0%	36.4%	1.6%
11	2	1	83.7%	15.0%	1.3%
12	2	1	50.1%	41.5%	8.3%
13	1	1	89.0%	10.0%	1.0%
14	1	1	44.6%	48.8%	6.6%
15	3	1	91.1%	8.0%	1.0%
16	2	1	36.8%	57.5%	5.8%
17	3	1	66.1%	31.4%	2.6%
18	1	1	35.5%	55.4%	9.1%
19	3	1	60.5%	34.3%	5.1%
20	1	1	80.8%	18.5%	0.7%
21	3	1	57.7%	38.8%	3.4%
22	2	1	35.9%	60.8%	3.3%
23	3	1	35.4%	63.1%	1.5%
24	1	1	27.6%	70.7%	1.7%
25	3	1	63.8%	34.7%	1.5%
26	1	1	41.9%	49.4%	8.7%
27	1	1	22.2%	60.8%	17.0%
28	1	1	18.5%	67.6%	13.8%
29	3	1	63.7%	35.3%	1.0%
30	3	1	40.6%	46.3%	13.1%
31	1	1	92.6%	5.3%	2.1%
32	3	1	51.8%	47.4%	0.7%
33	3	1	36.6%	50.4%	13.0%
34	3	1	46.2%	39.7%	14.1%
35	3	1	43.6%	39.3%	17.0%
36	1	1	36.0%	61.2%	2.8%
37	1	1	14.8%	83.6%	1.6%
38	2	1	36.6%	57.6%	5.8%
39	2	1	17.5%	67.9%	14.6%
40	2	1	36.6%	55.4%	8.0%



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】





## 1 理科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 20.6 点であり、観点別でみると、「科学的な思考・表現」の正答率が 48.0%、「観察・実験の技能」は 50.0%、「自然事象についての知識・理解」は 57.0% であった。すべての観点において、昨年度の正答率を上回った。無答率 10% 以上の問題は 7 問（問題数全体の 17.5%）であり、昨年度の 9 問（問題数全体の 22.5%）より減少している。

### (2) 正答率の高い問題について

「水素と酸素の化合」「染色体における分離の法則」の正答率は 90% を超えた（通し番号 15、31）。

また、「対照実験」「呼吸による BTB 溶液の色の変化」「地震計の記録を基にした初期微動継続時間と震央の位置」「脊椎動物の特徴による分類」の正答率は 80% 以上であった（通し番号 1、3、11、13、20）。実験・観察を通して用語等の理解、グラフや表から必要な情報を読み取ることができていると考えられる。

### (3) 読解力と正答率との関連について

「運動とエネルギー」において、おもりをつないだ力学台車の運動の様子を表した表を基に、力学台車に働いている力の大きさの変化を推測する問題の正答率が 14.8% と低い（通し番号 37）。表に示された台車の移動距離の増減が台車の運動方向に働く力の大きさであると混同してしまい、誤答となったと考えられる。表から読み取れる台車の移動距離をもとにして、台車の速さや力学台車の運動方向に働く力の大きさの変化を正しく考察することにつなげる必要があった。

#### (通し番号 37)

[11] 図 1 のように、なめらかで水平な机の上で、おもりのついたひもを力学台車につないだ。おもりから静かに手をはなすと、台車とおもりは動きだし、おもりが床についた後も、台車は運動を続けた。図 2 は、この実験で記録テープに記録された打点を 6 打点ごとに区切って、各区間を A~H としたものである。なお、記録タイマーは、1 秒間で 60 打点するものを使用した。表は、各区間における記録テープの長さを示している。次の問いに答えなさい。

- (1) ①おもりが落下しているとき、②おもりが床についた後の台車の運動の方向にはたらく力の大きさはどうなっているか。

次の A~エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア しだいに大きくなる      イ 一定  
ウ はたらいっていない      エ しだいに小さくなる

図 1

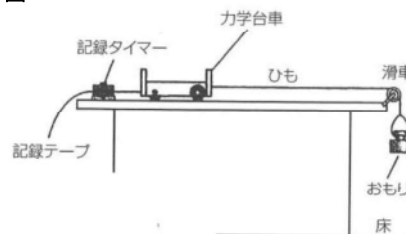
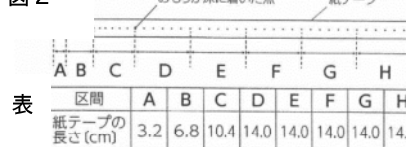


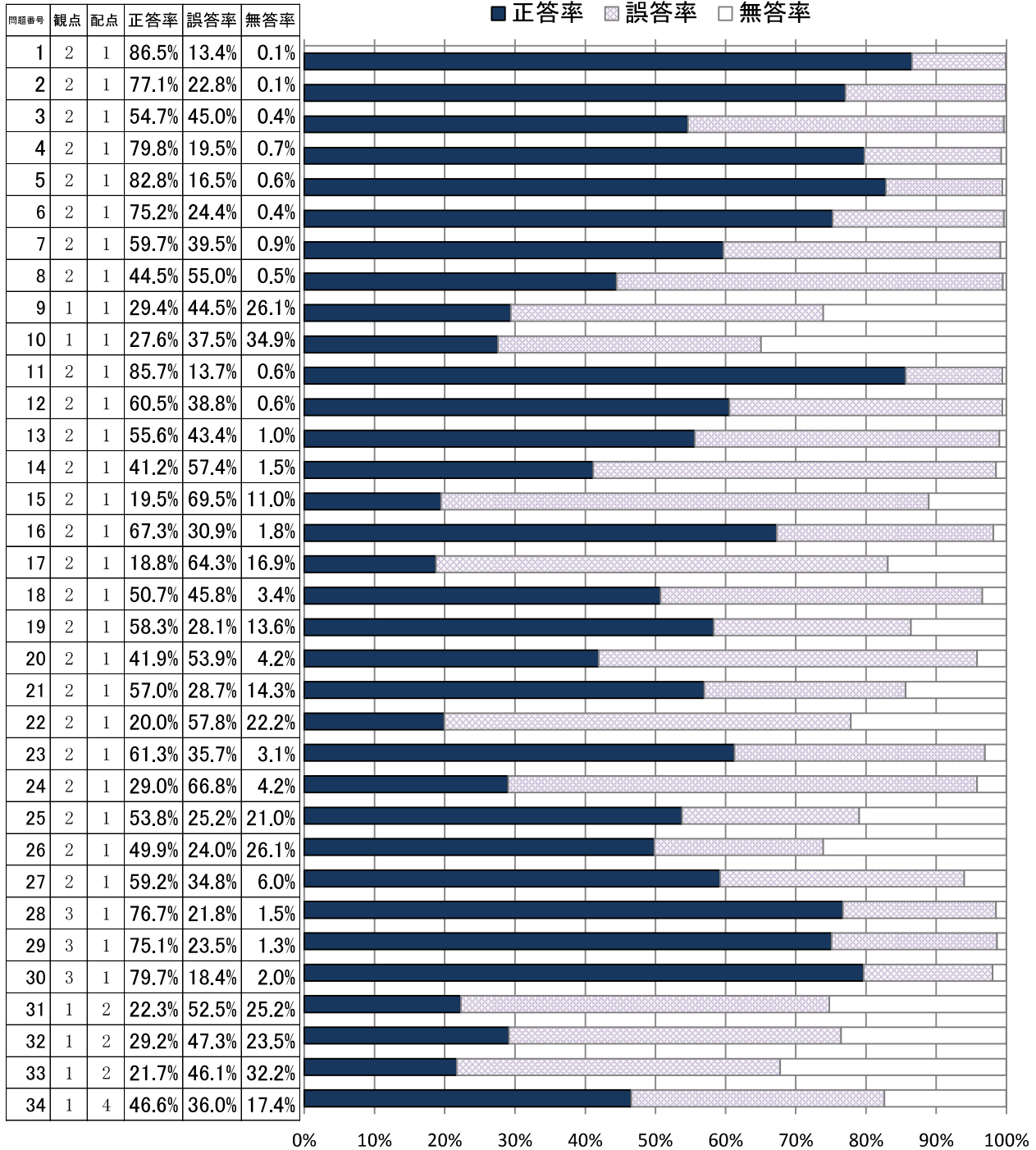
図 2



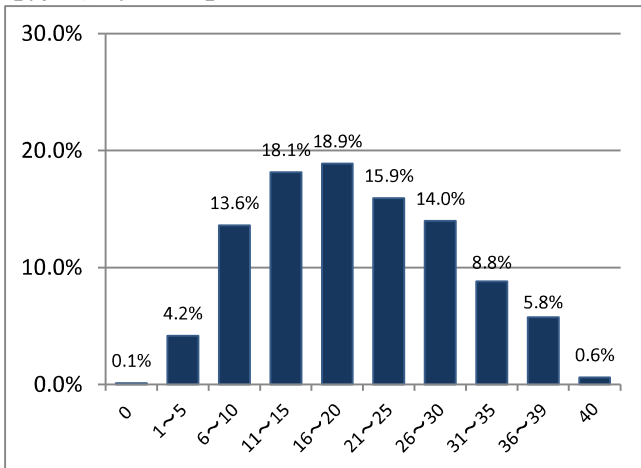
## 2 今後の授業に向けて

- (1) 科学的に探究する態度を養うためには、生徒の気づきや疑問を大切にし、根拠のある仮説を立て検証計画の立案をするなど、検証までの見通しをもった丁寧な観察・実験を繰り返し行うことが重要である。
- (2) 図、表、グラフから読み取る力を養うには、課題を正確に理解した上で、図、表、グラフの数値の変化から「何が、どのように」変化したのかを読み取り、そこから「それはなぜなのか」を考察することが必要である。実験や観察の際には、データを図、表、グラフ等の多様な形式で表して比較したり、規則性を見いだしたりするなどして、考察する思考の過程を大切にしたい。

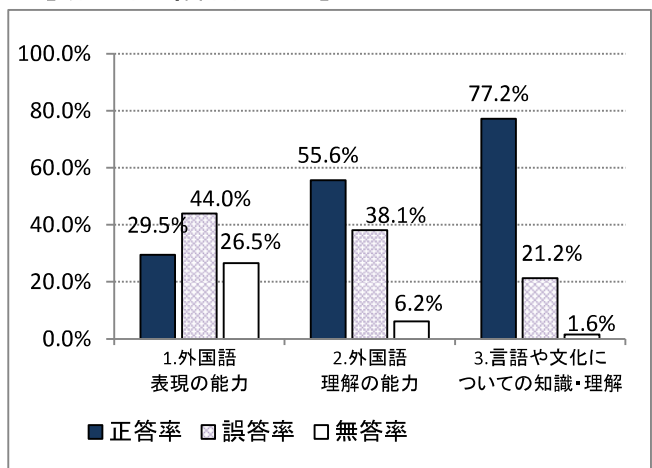
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 英語科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 19.9 点である。観点別でみると、「言語や文化についての知識・理解」の正答率が 77.2%、「外国語理解の能力」の正答率が 55.6%に対し、「外国語表現の能力」が 29.5%と低い。また、「外国語表現の能力」の無答率が 26.5%であり、昨年度(21.4%)と比べ高くなっている。無答率 10%以上の問題は 13 問であり、昨年度の 9 問より増加している。

### (2) 正答率の高い問題

「外国語理解の能力」に関する問題では、英文や対話文を聞いて、その内容の正誤について答える問題や概要を理解する問題の正答率が高い(通し番号 1、2、4、5、6)。「言語や文化についての知識・理解」に関する問題では、文法事項(現在分詞の形容詞用法、現在完了形)や文構造(疑問詞 to 不定詞を含む文)を問う語句の並べ替え問題の正答率が高い(通し番号 28、29、30)。

### (3) 読解力と正答率の関連について

ホームステイの体験を伝えるスピーチの要約文に適切な語をあてはめる問題では、正答率が 57.0%、20.0%であり、無答率が 14.3%、22.2%と高い。要約文が本文とほぼ同じ内容となるように適する語を選ぶためには、英文を読み取って正確に内容を把握するための語彙力や文構造を理解する力、同様の内容を伝えるための幅広い英語表現の知識が必要であり、これらの力に課題があると考えられる(通し番号 21、22)。

(通し番号 21、22)

弘と同じクラスのオーストラリアからの留学生が弘のスピーチを聞き感想を書きました。

( ① ) ( ② ) に入る、最も適切な語を本文中から 1 語ずつ抜き出して書きなさい。

I had the same experience. It was my first time to spend New Year's in Japan this year. I was surprised because New Year's in Japan is really different. New Year's is very ( ① ) for Japanese people. Customs are different in different countries. We should know each custom and the ( ② ) of it.

## 2 今後の授業に向けて

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、コミュニケーションにおいて活用できる「知識及び技能」を身につけるために、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた具体的な課題を設定する。また、考えを整理し、話す内容の構成を考えたり、相手に応じた表現を選択したりするなど、意味のある文脈の中でのコミュニケーションを通して、言語材料の定着を図る機会を十分に確保する。
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、様々な題材をテーマにした英語を聞いたり読んだりする機会を通して、概要を素早くとらえるようにする。さらに、理解した内容を基に自らの体験や考え等を英語で発信したり、賛否を明らかにしてその理由を伝える活動を積極的に取り入れたりするなどの活動を充実する。
- (3) 「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を養うために、スポーツ、音楽、学校行事、休日の計画といった生徒が共通して関心をもつ身近な事柄から抽象的な事柄へと段階的に取り入れ、自己表現活動を工夫する。また、実際のコミュニケーションの場面において考えを形成し、話したり書いたりして表現することを繰り返すことで、生徒が自信をもって英語を使いこなせるように、言語活動を展開する。

